

研究の背景・目的

広葉樹林は本県森林面積の半分以上を占めており、パルプやチップなどに利用される価値ある資源です。かつては20～30年周期で伐採され、伐採株から新たに芽を出す萌芽更新により、コストをかけず再生されていました。

しかし、現在では多くの広葉樹林が放置され高齢・大径化しています。樹木は高齢化するに従って萌芽力が減退することが指摘されており、多くの広葉樹林で伐採後の天然更新が危ぶまれています。天然更新が見込めない場合、苗木を植栽しなければならず、森林の再生にコストが掛かります。

そこで、伐採後に低コストで確実な更新が可能となる広葉樹林の管理手法を確立する必要があります。今年度はこの基礎資料となる県下の広葉樹林の資源量（材積）と、伐採後の萌芽更新の状況を調査します。



広葉樹林皆伐跡地



伐採株からの萌芽

研究方法

自然力を活用した広葉樹林の再生の可能性についての研究を行います。

①資源量調査

現地調査を行い、過去の森林調査データも活用しながら資源量を計算します。

②広葉樹伐採跡地の萌芽調査

伐採株からの萌芽の本数や大きさなどの調査を行います。



現地調査の様子

研究状況

資源量については、現在データをまとめています。また、県内4箇所のナラ類を主体とした高齢（50年～65年生）の広葉樹林の伐採跡地において萌芽調査を行いました。コナラやミズナラなどブナ科の樹木では、萌芽率が47～65%でした。

研究成果の活用・今後の研究計画

伐採後に広葉樹林を適正に利用するための伐採・更新基準として活用することができます。

さらに、伐採後の天然更新の状況を、伐採前に予見するシステム開発へ繋げていけると考えています。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ： 森林保護育成グループ

研究担当者： 岩田 若菜（いわた わかな）
林 晋平（はやし しんぺい）

問い合わせ先： 0854-76-3820

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名： 広葉樹林における再生技術の検討（研究期間：H24）